

Rotary Club of Sanuma
2023-2024年度
VOL 60

週報
佐沼ロータリークラブ

佐沼ロータリークラブ
2023-2024テーマ
「継続」と「変化」を实践し、
世界を変える行動人となる。

世界に希望を生み出そう
2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

会長 千葉正宏
幹事 布施孝尚
会報 猪股育夫

例会場 ホテルサンシャイン佐沼
☎22-8180 FAX22-0327
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
事務所 ホテルサンシャイン佐沼
☎22-8180 FAX22-0327



第2909回例会 2024. 5. 23 No.39

本日の出席率

・本日の出席率 65.2%

ニコニコボックス

- ・千葉正宏会長 ゲストスピーカーの山並太郎様を歓迎します。よろしくお祈りします。
 - ・阿部泰彦会員 河北新報・山並太郎登米支局長をお迎えして。スピーチよろしくお祈りします。
 - ・江川元徳会員 世界平和を祈ります。
 - ・八谷郁夫会員 ゲストスピーカーを歓迎いたします。
 - ・菅野幸一郎会員 ゲストスピーカーの河北新報社登米支局長、山並太郎氏を歓迎致します。
 - ・二階堂恭子会員 今日は天気も良く気持ちいいです。ゲストスピーカーのお話、とても楽しみです。
 - ・伊藤秀雄会員 河北新報社の山並太郎記者のスピーチ楽しみにしております。
 - ・布施孝尚幹事以下 本日のスピーチ楽しみです。
佐々木崇会員 遠藤光則会員 猪股育夫会員
佐々木源悦会員 岩淵正彦会員 富士原裕子会員
武川毅会員 及川昭宏会員 杉田広仁会員
佐藤早智子会員 佐藤哲弥会員 村上正弘会員
及川幾雄会員
- 以上、ありがとうございました。

会長要件 千葉正宏会長

5月も下旬に入り、会員の皆様より「あと1ヶ月半だねえ」とのお声掛けを頂いております。なんとか乗り切れますようご協力をお願いいたします。

今朝のテレビで小麦粉が不足しているため、米粉が人気と報道されていました。米余りと言われておりますが、米は自給率の非常に高いものですので、いくらかでも利用してほしいと思います。

来月は、いよいよ余目RCとの「姉妹クラブ締結式」が迫ってきております。年次計画には入っていない

かった行事ですが、余目RC様よりお声掛けを頂き、締結する運びとなりました。

千歳セントラルRCとの友好も深めたいと思い、今回の「大懇会」への参加を進めて参りましたが、先方も友好を深めたいとの事で、一人でも行きたいとの事でしたが、先方の地区行事と重なってしまい、参加出来ないとの事でした。なかなかタイミングが合わず、恋焦がれる時間というのは長いと感じております。

太田陽平会長エレクトからは「次年度はしっかり交流しましょう。北海道との交流は良いですね。」と仰っていただいておりますので、タイミングを見て引き続き交流させていただきたいと思っております。太田会長エレクトからは「千葉正宏会長と小野寺伸浩バスター会長は、一度行ってきているので、最後まで付き合ってくださいよ。」と言われております。私も覚悟しておりますので、小野寺バスター会長もよろしくお祈りいたします。因みに、小野寺バスター会長はこの夏RC主催のバイク乗り大会に出席します。当然ですが報告会もよろしくお祈りいたします。

今週は、シンガポールで開催されます「ロータリー国際大会」に出席のため、少なめの人数での例会となっております。国際大会参加チームからラインで情報を頂いております、何故か「詐欺サイト」にアクセスしてしまったようですが、すぐに「公式サイト」を見つけ難を逃れたようです。さすが高橋利光ツアーです。もう少しで太田チームが合流するようです。布施チームはこれから出発ですね。楽しんでください。土産話をたくさん持ち帰ってくれることを期待しております。

本日は、阿部泰彦会員の卓話となっております、代理で河北新報社の山並様よりお話を頂きます。メディアの方々のお話を頂戴する機会に恵まれて、感謝いたします。ちょっと深目の話もよろしくお願い致します。

幹事報告 布施孝尚幹事

- ・ボーイスカウト迫第1団より
令和6年度総会の案内
日時 6月13日(木) 18:30~
ところ 迫公民館 1階講習室
会費 3,000円

今週のスピーチ

「登米市のことで感じたこと」

河北新報社登米支局
支局長 山並太郎様

河北新報社の山並と申します。本日はお招きいただきありがとうございます。これまで河北新報社にご協力いただきありがとうございました。今後共々よろしくお願い致します。

私は、仙台市出身です。高校卒業し東京の法政大学に入りました。中学2年生の時、将来スポーツ記者になりたいと思っていました。大学卒業後河北新報社に就職し仙台に帰ってきました。2000年に入社し24年が経ちました。24年間この仕事をしてきたことで、今日皆様にお会いすることが出来ました。

高い志を持って奉仕をし、地域に貢献されている皆様に対し心から敬意を表します。

私は4月に支局長として登米市に来ましたので、登米市について感じていることをお話ししたいと思います。

まだ2ヶ月ちょっとしかいませんので、地域に根ざしている皆様からすると、今から私がお話しすることは「そんなものはわかっている」ということかも知れませんが、多少なりとも外側から来た人間として何かを伝えられるのではないかと考えております。

登米市の魅力について皆様は何を想像されますか。「さきにしき」「ひとめぼれ」等の穀倉地帯、「ふれあいの森」がある森の町、「伊豆沼」「長沼」のあり水の里と呼ばれている。仙台牛の発祥地、様々な部分で魅力がいっぱいあるなと思っています。

私は4月に着任してから地域のことを学びたいと思いい支局に来られる方々からお話を聞きました。その方々は結構登米市の悪いところをお話されるのです。今住んでいる所、あるいはふるりのいやなところを真っ先に口にするとするのはどうかと思いました。

私が根本的に思っているのは、先ずふるりを愛することです。記者は人の人生に土足で入ってきて嫌なことまで書くと言われる。しかし、これは「ニュース」だと言うことで伝えているのです。良いことも悪いことも伝えるべきであると思います。先ず良いところを見て、そこから良くしたいからこういうところが問題点であろうと。私はそういう姿勢で記者活動しております。記者は基本的にそうです。そういうことで、私は4月から比較的明るいニュースを書いております。地域のために一生懸命やっている人々を怒らせてはいけなし、地元の人たちは当り前過ぎて気づいていないであろう素晴らしいことを登米市以外から来た私が自分の視点で1個でも多く発掘できればと思って2ヶ月間原稿を書いております。

いろんな魅力はありますが、最終的には人間なのだ

と思います。皆さんが登米市の一番の魅力であると思います。

登米市の魅力である人をどういうふう育てていくのか？これは課題解決の一つのアプローチになるのかなと思うのですが。これは学術的根拠はないのですが、私の今までの記者活動を通しての経験からです。

アプローチの仕方はたくさんあります。例えば「子供を一生懸命育てる町」というキャッチフレーズ等が市にあれば様々な部分でアプローチ出来ると思っております。人口減の時には子育て世代に選ばれる町というのも重要なのではないかと。明確なキャッチフレーズの下に自分の地域の子供たちを大切に、地域で育てますというアプローチ、即ち自治体トップの言葉が必要です。子供たちが、ふるさを誇りに思うようになる子育てが大切だと思います。

私は2011年東日本大震災の時から岩手県の宮古支局で3年間震災取材をしておりました。涙を流しながらの取材でした。今日、この様な場にジャンパー姿で来ましたのは何故かと言いますと震災取材の時の学びなのです。考えたくもないのですが、今、あの震災クラスの地震が発生してもおかしくない。そうなった時に取材する前に泥かきの一つでも手伝える位の人間でありたいと思っております。スーツ姿の皆様の前でこの格好は失礼だと思っております、私の人生の学びであるということなのです。

震災した時に皆様がよく「ふるさは失ってから大切さがわかった」と言われました。失ってはじめてわかるもの、それ故、失う前に「ふるさは何だろうか」と言うのを答えられるような人間でありたいなと思っております。

ロータリークラブの活動で想像しますと、皆様方は全県、全国、あるいは海外まで行かれることがあるでしょう。行かれた先々で他の地域と比べながら自分たちの地域というのは、こういった良さがあるのだ。それがイコール(=)ふるさとなのではないかと思うのです。

ふるさを大事に思っていれば魅力は言えるのです。悪いところは真っ先に口から出ないのではないかと。

登米支局勤務は3年であと1000日です。3年はあっという間に過ぎます。一日一日を大事にして登米市局で一生懸命頑張ってください。

— 紙面の都合上、主旨のみにさせていただきます。



スピーチをする山並太郎様